

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 九州財務局長

**【提出日】** 平成27年2月13日

**【四半期会計期間】** 第19期第2四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）

**【会社名】** 株式会社ビューティ花壇

**【英訳名】** Beauty Kadan Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 三島 美佐夫

**【本店の所在の場所】** 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

**【電話番号】** 096-370-0004

**【事務連絡者氏名】** 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

**【最寄りの連絡場所】** 熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番地

**【電話番号】** 096-370-0004

**【事務連絡者氏名】** 取締役コーポレート本部長 田口 絹子

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第18期 第2四半期連結 累計期間	第19期 第2四半期連結 累計期間	第18期
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年7月1日 至 平成26年6月30日
売上高 (千円)	2,902,106	3,136,256	6,686,771
経常利益又は経常損失( ) (千円)	28,963	20,053	43,065
四半期純損失( )又は当期純利益 (千円)	20,431	41,896	49,231
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	20,384	37,373	44,920
純資産額 (千円)	575,412	591,302	641,772
総資産額 (千円)	3,348,388	3,315,081	3,013,822
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額( ) (円)	4.81	9.93	11.63
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	17.2	17.7	21.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	226,220	90,536	29,055
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	176,547	97,832	243,834
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	523,064	133,494	229,460
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	901,749	1,113,620	789,374

回次	第18期 第2四半期 連結会計期間	第19期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.54	6.68

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第18期第2四半期連結累計期間及び第19期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。第18期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれる事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクに重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間(平成26年7月1日から平成26年12月31日まで)におけるわが国の経済は、政府や日銀による経済政策や金融緩和政策の推進及び米国経済の好調を背景に、輸出環境や企業収益の改善が見られ、緩やかな景気回復基調で推移いたしました。しかしながら、円安の影響による輸入価格の上昇やそれに伴う物価の上昇、消費税増税等による個人消費の低迷等により、依然として景気の先行きの見通しは不透明な状況が続いております。

当社は、このような状況の中、平成27年6月期を初年度とする中期経営計画「Revival & Growth 2017」を策定し、当期からの3ヶ年を業績回復及び向上の期間と位置付け、グループ一丸となって取り組んでおります。当計画における事業方針としましては、当社グループのコア事業であり、強みを活かせるカテゴリーである生花事業に最大限注力するものとし、新規事業への投資については、成長性と収益性の期待できる事案に限定することで収益拡大を図ることとしております。具体的には「ブランド力の再強化」、「継続的な事業発展に向けた経営体制の強化」、「既存事業の再構築と成長事業の更なる収益力強化」、「徹底したコストダウンによる筋肉質な企業体質への変革」、「人材育成と新たな人事制度構築」をビジョンに掲げ推進しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、3,136,256千円(前年同期比8.1%増)、営業損失は13,430千円(前年同期は58,093千円の損失)、経常損失は20,053千円(前年同期は28,963千円の損失)、四半期純損失は投資不動産売却損として28,601千円を計上したこと等により、41,896千円(前年同期は20,431千円の損失)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### (生花祭壇事業)

生花祭壇事業の売上高は、1,537,989千円(前年同期比1.4%減)となりました。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、葬儀業の平成26年7月から平成26年12月までの売上高は295,281百万円(前年同期比0.3%増)、取扱件数は206,293件(前年同期比0.4%減)と直近の集計ではいずれも横ばいで推移いたしました。この数年での傾向といたしましては、葬儀単価はやや低下しつつも件数が増加し、売上は拡大している状況です。(同調査は、平成25年1月分より葬儀業において、一部調査対象の追加等が行われており、平成24年12月以前の数値はリンク係数(データの比較可能性を確保するために算出した係数)で除した数値で前年比較を行っております)。このように葬儀業全体では市場は拡大傾向にありますが、葬儀業における各カテゴリー(葬祭専門事業者、冠婚葬祭業者、農業協同組合、新規参入事業者等)別や地域別にみるとその状況は均一ではありません。特定のカテゴリー事業者や地域では社会構造の変化に伴い、消費者の価値観やニーズも急激に変化が進んでおり、特に大都市圏において葬儀の小型化とともに単価の下落傾向が続いております。このような状況の中で、当事業では、生花の調達力を活かした低価格商品の開発を進め、プライスリーダーシップを取り、当社独自の市場の開拓を進めております。また、営業部門では多様なカテゴリーの顧客に対応する提案能力の強化と意識改革の推進を実施しております。その他、原価低減策等が奏功したこと、また台湾の連結子会社である美麗花壇股份有限公司(現在清算手続中)による収益圧迫要因がなくなったこと等の一方で、戦略的な販売管理費の増加を受け、その結果、営業利益は65,183千円(前年同期比2.5%減)となりました。

#### (生花卸売事業)

生花卸売事業の売上高は、前第2四半期連結会計期間中に完全子会社化したマイ・サクセス株式会社の業績を、前第3四半期より連結損益計算書に反映したこと等により、898,519千円(前年同期比65.1%増)となりました。東京都中央卸売市場「市場統計情報」(平成26年12月)によると、平成26年7月から平成26年12月までの切花累計の取扱金額は30,772百万円(前年同期比1.2%減)、数量では467百万本(前年同期比1.5%減)と金額ベース、数量ベースともに減少傾向にあります。当事業では、平成26年8月より生花輸入業務をマイ・サクセス株式会社へ移管、従来の生花卸売事業(国内流通)と生花祭壇事業とのシナジー追求に注力し、積極的な業務効率化施策を実施しております。しかしながら、当該分業施策とコスト削減策が奏功しはじめたものの、当第2四半期連結会計期間中における効果が顕在化するには至らず、営業利益は64,406千円(前年同期比5.4%減)となりました。

#### (ブライダル装花事業)

ブライダル装花事業の売上高は246,513千円(前年同期比2.2%減)となりました。少子化と非婚化の影響を受け、婚姻件数は減少傾向にあるものの、オリジナル挙式志向の高まり、結婚年齢の上昇等による費用の増加を背景に大きな市場規模が保持されております。経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」によると、平成26年6月から平成26年12月までの結婚式場業の売上高は86,862百万円(前年同期比6.1%減)、取扱件数は28,716件(前年同期比7.8%減)となっております。(同調査は、平成26年4月分より結婚式場業において、一部調査対象の追加等が行われており、平成26年3月以前の数値はリンク係数(データの比較可能性を確保するために算出した係数)で除した数値で前年比較を行っております)。ブライダル装花事業を請け負う連結子会社の株式会社One Flowerでは、平成26年7月に東京都江東区に「豊洲店」、福岡県福岡市西区に「姪浜店」として、店舗併設の新規拠点を開設、同年10月には東京都中央区銀座において新たな提携式場が稼働するなど、今後のブライダル装花事業の成長に向け各営業施策を実行しております。この結果、これらの営業施策による人件費及びその他販売管理費の増加等に伴い、営業利益は39,016千円(前年同期比21.0%減)となりました。

#### (土木・建設事業)

土木・建設事業は熊本市内及びその近郊にて事業を行っております。熊本県内の近年の工事内容を見ると、災害対策として河川などの維持・修繕工事に加え、安倍政権の経済政策「アベノミクス」による公共投資は増加傾向にあり、今後もこの傾向は暫く堅調に推移するものと思われれます。しかしながら、公共工事の特性上、例年子会社である昇建設株式会社における第1四半期は閑散期にあたるため、当連結累計期間は低調に推移いたしました。また、これに加え、売上高は一部繰越工事のあった前年同期比では減少し、194,926千円(前年同期比53.6%減)となりました。さらに、公共工事件数の大幅な増加に伴う資材や人件費の高騰の影響もあり、営業損失は20,527千円(前年同期は10,977千円の利益)となりました。

#### (その他の事業)

その他の事業の売上高は、システム開発事業及び不動産管理事業に、前連結会計年度より、冠婚葬祭に関する企画並びにコンサルタント業務、一般労働者派遣業を追加したこと等により258,307千円(前年同期比104.4%増)、営業利益は18,526千円(前年同期は4,854千円の損失)となりました。システム開発事業は、葬儀関連会社に対する基幹システム、名札書きシステム及びモバイル端末を用いた電子カタログや建築事業者に対するCADシステムの開発を行っております。不動産管理事業は、不動産の取得、処分、賃借の仲介及び管理を行っております。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間の総資産は、前連結会計年度末に比べ301,259千円増加し、3,315,081千円となりました。これは主に現金及び預金、受取手形及び売掛金の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間の負債は、前連結会計年度末に比べ351,729千円増加し、2,723,779千円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金、短期借入金、その他流動負債の増加によるものであります。

当第2四半期連結会計期間の純資産は、前連結会計年度末に比べ50,470千円減少し、591,302千円となりました。これは主に、利益剰余金の減少によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末と比べ324,246千円増加し、1,113,620千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、営業活動の結果獲得した資金は90,536千円（前年同期は226,220千円の使用）となりました。これは主に、売上債権の増加額101,777千円（資金の使用）と仕入債務の増加額131,706千円及びその他負債の増加額54,800千円（いずれも資金の獲得）等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、投資活動の結果獲得した資金は97,832千円（前年同期は176,547千円の使用）となりました。これは主に、投資不動産の売却による収入149,842千円があった一方で、有形及び無形固定資産の取得による支出50,456千円等があったためであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当第2四半期連結累計期間において、財務活動の結果獲得した資金は133,464千円（前年同期は523,064千円の獲得）となりました。これは主に、借入金の純増98,487千円、セール・アンド・リースバックによる収入74,798千円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,600,000
計	17,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	5,076,000	5,076,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株で あります。
計	5,076,000	5,076,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		5,076,000		213,240		133,240

##### (6) 【大株主の状況】

平成26年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社MMC	熊本県熊本市中央区	1,000,000	19.70
三島 美佐夫	熊本県熊本市中央区	707,400	13.94
謝花 斉	沖縄県中頭郡	229,400	4.52
ビューティ花壇従業員持株会	熊本県熊本市南区流通団地1丁目46番	172,200	3.39
三島 志子	熊本県熊本市東区	120,000	2.36
清水 康	東京都新宿区	100,000	1.97
畑 美智子	奈良県桜井市	84,600	1.67
株式会社河野メリクロン	徳島県美馬市脇町大字北庄562-1	68,800	1.36
河野 通郎	徳島県美馬市	46,200	0.91
マネックス証券株式会社	東京都千代田区麹町2丁目4-1	40,701	0.80
計		2,569,301	50.62

(注) 上記のほか当社所有の自己株式855,700株(16.86%)があります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 855,700	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,219,800	42,198	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 500	-	-
発行済株式総数	5,076,000	-	-
総株主の議決権	-	42,198	-

(注) 「完全議決権株式(自己株式等)」欄は、全て当社保有の自己株式であります。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ビューティ花壇	熊本県熊本市南区流通団地1-46	855,700		855,700	16.86
計		855,700		855,700	16.86

(注) 上記「自己株式等」は、全て当社保有の自己株式であります。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年7月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、監査法人よつば総合事務所による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	789,374	1,113,620
受取手形及び売掛金	595,229	701,213
完成工事未収入金	84,432	80,417
商品	14,131	15,460
仕掛品	2,118	1,982
原材料及び貯蔵品	25,419	41,886
販売用不動産	-	10,497
未成工事支出金	1,201	611
繰延税金資産	28,088	35,374
その他	102,952	111,808
貸倒引当金	12,479	11,316
流動資産合計	1,630,468	2,101,556
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	445,431	453,680
減価償却累計額	169,414	179,619
建物及び構築物(純額)	276,017	274,061
車両運搬具	202,950	102,686
減価償却累計額	139,098	29,342
車両運搬具(純額)	63,852	73,344
工具、器具及び備品	193,353	196,264
減価償却累計額	150,551	159,392
工具、器具及び備品(純額)	42,802	36,871
土地	235,091	236,591
その他	23,057	24,096
減価償却累計額	12,499	13,227
その他(純額)	10,557	10,868
有形固定資産合計	628,321	631,736
<b>無形固定資産</b>		
のれん	137,342	120,291
その他	18,246	19,591
無形固定資産合計	155,589	139,883
<b>投資その他の資産</b>		
投資不動産	210,697	16,145
減価償却累計額	16,108	-
投資不動産(純額)	194,589	16,145
差入保証金	213,053	200,728
繰延税金資産	38,266	44,942
その他	169,801	198,670
貸倒引当金	16,267	18,582
投資その他の資産合計	599,443	441,904
固定資産合計	1,383,353	1,213,524
資産合計	3,013,822	3,315,081
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	234,416	324,801
短期借入金	815,000	943,202
1年内返済予定の長期借入金	364,710	337,446



1年内償還予定の社債	20,000	20,000
未払金	68,755	76,576
未払法人税等	39,021	15,207
賞与引当金	2,800	12,520
繰延税金負債	457	226
その他	271,381	401,855
<b>流動負債合計</b>	<b>1,816,542</b>	<b>2,131,835</b>
<b>固定負債</b>		
社債	20,000	10,000
長期借入金	477,547	475,096
リース債務	2,253	41,818
退職給付に係る負債	34,158	36,715
その他	21,548	28,314
<b>固定負債合計</b>	<b>555,507</b>	<b>591,944</b>
<b>負債合計</b>	<b>2,372,049</b>	<b>2,723,779</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	213,240	213,240
資本剰余金	142,056	142,056
利益剰余金	456,542	399,874
自己株式	178,643	178,643
<b>株主資本合計</b>	<b>633,195</b>	<b>576,527</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>		
その他有価証券評価差額金	281	368
為替換算調整勘定	5,563	9,992
<b>その他の包括利益累計額合計</b>	<b>5,845</b>	<b>10,361</b>
<b>新株予約権</b>	<b>2,731</b>	<b>4,405</b>
少数株主持分	-	8
<b>純資産合計</b>	<b>641,772</b>	<b>591,302</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>3,013,822</b>	<b>3,315,081</b>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
売上高	2,902,106	3,136,256
売上原価	2,439,491	2,622,274
売上総利益	462,615	513,982
販売費及び一般管理費	1 520,708	1 527,413
営業損失( )	58,093	13,430
営業外収益		
受取利息及び配当金	552	396
受取賃貸料	10,242	6,482
為替差益	79	1,307
その他	33,862	2,372
営業外収益合計	44,737	10,558
営業外費用		
支払利息	7,543	8,975
不動産賃貸費用	2,513	5,924
その他	5,551	2,280
営業外費用合計	15,608	17,180
経常損失( )	28,963	20,053
特別利益		
受取損害賠償金	17,438	-
固定資産除売却益	118	2,078
特別利益合計	17,556	2,078
特別損失		
固定資産除売却損	3,300	390
投資不動産売却損	-	28,601
長期前払費用償却	7,857	-
その他	237	1,469
特別損失合計	11,395	30,461
税金等調整前四半期純損失( )	22,802	48,436
法人税、住民税及び事業税	6,727	8,699
法人税等調整額	926	15,248
法人税等合計	5,800	6,548
少数株主損益調整前四半期純損失( )	28,603	41,888
少数株主利益又は少数株主損失( )	8,171	8
四半期純損失( )	20,431	41,896

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失( )	28,603	41,888
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	55	86
為替換算調整勘定	8,163	4,428
その他の包括利益合計	8,218	4,515
四半期包括利益	20,384	37,373
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	15,886	37,381
少数株主に係る四半期包括利益	4,497	8

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失( )	22,802	48,436
減価償却費	41,226	36,085
投資不動産売却損益( は益)	-	28,601
のれん償却額	13,421	17,050
差入保証金償却額	569	1,814
長期前払費用償却額	13,454	971
貸倒引当金の増減額( は減少)	15,046	960
賞与引当金の増減額( は減少)	1,991	9,720
退職給付引当金の増減額( は減少)	2,555	-
退職給付に係る負債の増減額( は減少)	-	2,556
受取利息及び受取配当金	1,188	396
受取賃貸料	10,242	6,482
補助金収入	950	217
支払利息	7,543	8,975
固定資産除売却損益( は益)	3,300	390
売上債権の増減額( は増加)	294,222	101,777
たな卸資産の増減額( は増加)	12,432	27,567
その他の資産の増減額( は増加)	28,164	8,433
仕入債務の増減額( は減少)	119,444	131,706
未成工事受入金の増減額( は減少)	26,711	30,907
その他の負債の増減額( は減少)	17,310	54,800
その他	14,190	8,678
小計	190,315	122,550
利息及び配当金の受取額	1,188	396
賃貸料の受取額	8,586	5,616
補助金の受取額	950	217
利息の支払額	8,330	9,089
法人税等の支払額	38,299	29,154
営業活動によるキャッシュ・フロー	226,220	90,536
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	9,957	-
貸付けによる支出	570	-
貸付金の回収による収入	1,873	2,145
関係会社株式の取得による支出	111,021	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	92,471	50,456
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,461	-
保険積立金の積立による支出	17,691	18,079
保険積立金の払戻による収入	-	3,325
差入保証金の差入による支出	5,158	8,062
差入保証金の回収による収入	21,752	16,809
投資不動産の売却による収入	-	149,842
その他	15,320	2,307
投資活動によるキャッシュ・フロー	176,547	97,832
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	540,000	310,000
短期借入金の返済による支出	73,507	181,798
長期借入れによる収入	350,000	167,620
長期借入金の返済による支出	227,121	197,335
社債の償還による支出	15,000	10,000
自己株式の取得による支出	21,720	-

配当金の支払額	25,740	14,771
セール・アンド・リースバックによる収入	-	74,798
その他	3,847	15,049
財務活動によるキャッシュ・フロー	523,064	133,464
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,605	2,412
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	127,901	324,246
現金及び現金同等物の期首残高	773,847	789,374
現金及び現金同等物の四半期末残高	901,749	1,113,620

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
給料手当	155,802千円	144,946千円
退職給付費用	1,347千円	805千円
賞与引当金繰入額	1,627千円	7,623千円
貸倒引当金繰入額	2,555千円	1,856千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
現金及び預金勘定	901,749千円	1,113,620千円
現金及び現金同等物	901,749千円	1,113,620千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年7月1日至平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月20日 定時株主総会	普通株式	25,740	1,200	平成25年6月30日	平成25年9月24日	利益剰余金

(注)平成25年7月1日を効力発生日として、普通株式1株を200株の割合で株式分割を行っています。当該株式分割を考慮した場合、1株当たり配当額は6円となります。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年7月1日至平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年9月22日 定時株主総会	普通株式	14,771	3.5	平成26年6月30日	平成26年9月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	土木・建設 事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,559,635	544,084	252,062	419,980	2,775,763	126,343		2,902,106
セグメント間の内部売上高又は振替高	12	490,029	2,314		492,355	1,331	493,687	
計	1,559,647	1,034,113	254,377	419,980	3,268,118	127,675	493,687	2,902,106
セグメント利益又は損失( )	66,872	68,108	49,366	10,977	195,324	4,854	248,563	58,093

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業と不動産管理事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 248,563千円には、セグメント間取引消去 17,470千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 266,033千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

生花卸売事業セグメントにおいて、当第2四半期連結会計期間にマイ・サクセス株式会社の株式を取得し連結子会社としました。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第2四半期連結累計期間においては41,374千円であります。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年7月1日 至 平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	生花祭壇 事業	生花卸売 事業	ブライダル 装花事業	土木・建設 事業	計			
売上高								
外部顧客への売上高	1,537,989	898,519	246,513	194,926	2,877,949	258,307		3,136,256
セグメント間の内部売上高又は振替高	104	525,700	5,718		531,523	14,921	546,445	
計	1,538,093	1,424,220	252,232	194,926	3,409,473	273,229	546,445	3,136,256
セグメント利益又は損失( )	65,183	64,406	39,016	20,527	148,079	18,526	180,036	13,430

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発事業と不動産管理事業、冠婚葬祭事業者向け人材派遣業、並びに冠婚葬祭に関する企画及びコンサルタント事業であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 180,036千円には、セグメント間取引消去27,681千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 207,717千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成25年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年7月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額( )(円)	4.81	9.33
四半期純損失金額( )(千円)	20,431	41,896
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失金額( )(千円)	20,431	41,896
期中平均株式数(株)	4,244,483	4,220,300

(注) 前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間における潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年 2月13日

株式会社ビューティ花壇  
取締役会 御中

監査法人よつば総合事務所

指定社員 業務執行社員	公認会計士	神 門 剛	印
指定社員 業務執行社員	公認会計士	高 屋 友 宏	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティ花壇の平成26年7月1日から平成27年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年10月1日から平成26年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年7月1日から平成26年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティ花壇及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。